

本物の牛にふれてみよう！ ～もっと知りたい！牛乳のこと～

目 標

- ・牛乳や乳製品などの食に関する知識を高める。
- ・酪農業に携わる方の話や体験を通して、仕事や働くことについて関心を高める。

育てたい力

- 牛に触れたり、バターを作ったりする体験を通して、食への関心や生産者、食べ物への感謝の気持ちを育てる。
- 酪農業という仕事を知り、働く人の気持ちを考える。

主な学習活動（生活単元学習：5時間）

牛乳は  
どうやって？  
(7月)

- ・昨年度の活動の振り返りとして、牛乳に関する動画を見た。
- ・牛乳が作られるまでの動画から、牛乳の大切さを知ることができた。



酪農体験を  
しよう  
(8月)

- ・酪農体験に向けて、牧場での仕事や体験内容を学習した。

酪農体験を  
しよう  
(9月)

- ・牧場へ行き、乳しぼりや牛との触れ合い、バター作りなどに取り組んだ。牛の大きさに驚き、乳しぼりに喜び、バター作りに熱中した。体験をすることによって牛の体の温かさに気付き、苦手な牛乳が飲めるようになった。



酪農体験で  
学んだこと  
(9月)

- ・学習のまとめとして、お礼の手紙を書き、牛について学んだことをワークシートに書き込んだ。低学年は、牛との触れ合いを、高学年は、働く大変さも考えながら手紙を書いた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「牛の体はあったかかったよ。」「こんなに美味しい牛乳は初めてだ。」「乳しぼり楽しかった。」「餌をあげたら食べてくれた。」「毎日世話をして大変そう。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

本物の牛の大きさをその場で見たり実際に触れたりすることによって、大きさを知ったり、人よりも牛の方が体温が高いということに気付いたりすることができた。また、乳製品が苦手な児童が前向きに食べるようになったり、「また行きたいな。」と言う児童がいたり、本物の体験をしたことで成長が見られた。

高学年は、酪農業という仕事を知ることによって「働く」ことに対して身近に感じる事ができた。牛の世話などに興味をもったり、牛乳ができるまでの工程に、以前より興味をもったりする児童が増えた。お礼の手紙では、感謝の気持ちを込めて丁寧に字を書くことができた。

体験先、関係機関

むらかみ牧場（恵庭市）